

第4次芦屋市地域福祉計画の概要版の作成について

1 作成の経緯

- 1 地域福祉部会での意見
 - (1) 計画書に分かりやすい言葉を使ってほしい
 - (2) 漢字や専門用語が多くて難しい



2 市の対応

- (1) 法律, 制度の名称などに漢字が多く, 説明のためには使わざるを得ない
- (2) 分かりやすい言葉を使うと, 趣旨を伝えにくい(説明をしつくせない)



できる限り分かりやすい言葉を意識しましたが…

結 論

「地域福祉計画の取扱説明書(概要版)」を作成する

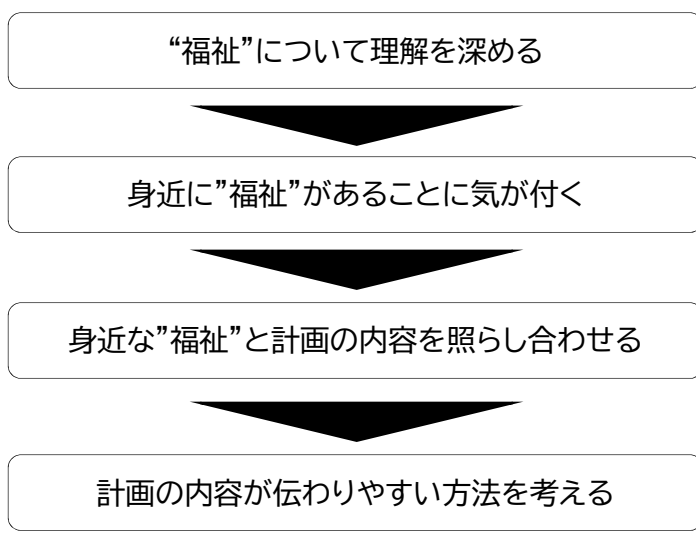
2 作成メンバー

- (部会委員) 針山委員, 橋野委員
 (あしや部) 中学生1名, 高校生1名, 大学生2名(あしや部 OB)
 (事務局) 地域福祉課 高木(社会福祉協議会担当), 岡本, 梅木

3 作成スケジュール

日 時	内 容
11月20日(土)	作成メンバー顔合わせ及び概要説明
12月19日(日)	第1回作戦会議 ① みんなの”福祉”紹介 ② 身近で体験した”福祉”エピソード
1月16日(日)	第2回作戦会議 ① 第1回会議の振り返り ② 身近で体験した”福祉”エピソードと計画の関連を確認 ③ 分かりづらい用語を確認 ④ いろんな人に伝えるための工夫
1月21日(金)	【本日】社会福祉審議会地域福祉部会にて報告
2月 4日(金)	社会福祉審議会にて報告
2月中旬	第3回作戦会議
3月上旬	原稿確定
3月下旬	納品

4 作成の流れ



協議の過程も
概要版に反映



このように協議を進めた結果・・・

5 概要版の方向性

「地域福祉の“トリセツ”」

地域福祉計画から重要なところを抜粋するのではなく、特に伝えたい内容や地域をどうしていきたいかが伝わる内容で、市民の方に気軽に手にとっていただき、地域活動への参加につながるものを目指します。

(1) 作戦会議での気づき

- ・”福祉”への関わり方は色々な種類がある(自分が参加する・人に助けをもらう・人とつながる等)
- ・”福祉”=仕事と思っていたけれど、身近にあるものだと知ることができた
- ・日頃の生活の中で自然と”福祉”に関連する活動をしているけど、自覚にはつながっていない
- ・これまでの”福祉”との接点がなかった人も、つながることで気がつくことがある
- ・自分がしあわせと思えることをお互いに行動できれば、“しあわせ”が広がっていくのでは
- ・作戦会議を通じて”福祉”について知ることができてよかった。知りたいと思っている学生は他にもいると思う
- ・「分からない言葉」が多いが、わざわざ調べることはなく、「分かりづらい」につながっている

(2) 伝わりやすい工夫

- ・年代別の身近なストーリー(具体例)やキャッチコピー
- ・本当に伝えたいことに内容を絞り、分かりやすい言葉で表現
- ・「概要」という言葉が難しいので、親しみやすい言葉で呼びかける
- ・「手に取りたい」と思ってもらえるようなビジュアル
- ・イラスト, 写真, マンガ
- ・市役所の中で情報が留まっているので、学生が行く場所(学校等)でPRをする

6 今後の流れ

(1/21)社会福祉審議会地域福祉部会および(2/4)社会福祉審議会にて概要版に対するご意見を頂戴し、第3回作戦会議でその内容も報告し、概要版の具体的な内容について協議します。